

登山月報

第24回リードジャパンカップ	1
平成22年度国際委員総会	3
平成21年度氷雪技術研修会	4
スティーブ・ロング氏招聘の意義	5
新連載 Mountain World 第20回	6
計報、UAA春期理事会報告	7
BMC International Sea Cliff Climbing Meet 2010	9
寄贈図書	11
JMA、編集後記	12

第24回リードジャパンカップ千葉大会報告

今大会で特筆すべきはまず、常設の国体会場としては埼玉国体以来となる屋内会場での開催だったということだろう。伝統的に(?)国体会場は屋外であり、仮設についても神戸大会の例があるのみだ。

大きな理由としては、大規模な人工壁を常設で設置する場合、既存の体育館では様々な制約があって難しいと言ったことがある。しかし今回は幸運なことに、体育館の新設時であったため、屋内の常設壁が実現した。昨年の新潟国体のように、開催時の天候に気をもむ必要が無いというのは、非常にありがたいことだ(今回は皮肉なことに、「屋内開催の大会に限って好天に恵まれる」というクライミングコンペのマーフィーの法則が当てはまったのではあるけれど)。

そしてもうひとつは、選手の世代交代が一層強く印象づけられたことだろう。昨年のこの大会は、若手の台頭にベテランが待ったをかけた結果だったが、今大会はベテラン勢が若手に完全に押し切られた形となった。それは決勝に残った顔ぶれを見ればあきらかだろう。女子に至っては、大半が10代の、未だユース大会に出場できる選手である。男子の渡辺、小澤、松島、女子の小林、榊原は、キャリアからすればベテランと言うべきではあるが、それにしても20代半ばから後半。もはや30代には太刀打ちできない競技になってしまったのだろうか。競技の特性



から言って、そういうものだと言ってしまうまでなのだが。

競技の結果はリザルトをご覧ください。男子は本命の安間が、決勝をただ一人完登して優勝。圧倒的な強さを誇る安間だが、他の選手も決して負けてはいない。2位の渡辺数馬はどうしてもボルダリーの選手という印象が強いが、最近はリードにシフトして、本来の実力を発揮している感がある。3位の角田は、今回は完全に「当たり」だったようだ。望みたいのは安定性だろう。

女子は小田桃花が、ボルダリング・ワールドカップでの2位入賞の余勢を駆って、小林由佳を破り優勝した。小林は今回が今期初コンペと言うこともあって、十分な調整ができていないのかもしれない。小田は昨年のボルダリング・ジャパンカップでも野口啓代とスーパーファイナルにもつれこんでいる。オールラウンドな強さで、他の若手女子から頭一つ抜け出したようだ。

さてこの会場についても一つ。ゆくゆくはワールドカップを開催する、と言う話もあるという。東京近郊で成田空港も近い、と言う意味では大会誘致には有利な条件を備えている。国体終了後は、新しい競技会の拠点として大いに活用されることを期待したい。(競技部常任委員 山本和幸)



男子リード 総合成績

順位	姓	名	No	予選		準決勝		決勝				
				記録	順位	記録	順位	記録	順位			
1	安間	佐千	16	栃木県	top	1	top	1	top	1		
2	渡辺	数馬	29	千葉県	top	1	top	1	31	- 2		
3	角田	大樹	9	埼玉県	top	1	top	1	30	- 3		
4	芝田	将基	68	栃木県	top	1	41	- 7	26	- 4		
5	新田	龍海	61	神奈川県	top	1	top	1	23	- 5		
6	樋口	純裕	63	佐賀県	top	1	42	- 5	23	- 6		
7	松島	暁人	18	宮城県	top	1	40	+	8	23	- 7	
8	小澤	信太	10	埼玉県	37	- 17	41	+	6	21	+	8
9	尾形	和俊	56	長崎県	top	1	40	9				
9	中原	栄	44	岡山県	top	1	40	9				
11	島谷	尚季	32	千葉県	top	1	39	11				
11	小西	大介	54	岡山県	top	1	39	11				
13	永田	乃由季	19	沖縄県	top	1	39	- 13				
14	茂垣	敬太	69	山口県	top	1	38	- 14				
15	村井	隆一	30	千葉県	36	+	20	35	- 15			
16	羽鎌田	直人	42	千葉県	top	1	34	16				
17	藤井	快	17	静岡県	37	- 17	34	17				
18	中野	稔	72	広島県	36	- 24	34	18				
19	立木	孝明	31	千葉県	35	+	26	34	19			
20	是永	敬一郎	74	埼玉県	top	1	34	- 20				
21	橋場	友祐	51	富山県	top	1	31	21				
22	家泉	知幸	67	栃木県	36	+	20	31	- 22			
23	渡部	桂太	40	三重県	37	- 17	30	23				
24	山内	誠	45	神奈川県	36	23	30	- 24				
25	小福田	仁	43	岡山県	36	- 24	27	+	25			
26	大森	啓太	73	岡山県	36	+	20	27	26			
27	三上	誉人	47	岩手県	35	27						
28	藤原	佑樹	14	岩手県	31	- 28						
29	中嶋	拓也	7	東京都	29	- 29						
29	大橋	直人	36	山口県	29	29						
31	新川	裕希	11	千葉県	29	- 31						
31	斉野	祐人	20	兵庫県	29	- 31						
31	國井	敬一	22	茨城県	29	- 31						
31	藤城	大知	28	愛知県	29	- 31						
31	島谷	溪亮	41	千葉県	29	- 31						
31	山内	祐樹	46	神奈川県	29	- 31						
31	渡邊	裕介	4	大分県	28	+	37					
37	奥井	健吾	65	京都府	28	+	37					
39	飯田	譲	1	千葉県	27	- 39						
39	津守	暁斗	5	山口県	27	- 39						
39	林	富明	55	長崎県	27	- 39						
42	塚田	遼河	21	茨城県	26	42						
42	水口	勝登	52	岐阜県	26	42						
44	長谷川	健太	13	岩手県	24	44						
44	鈴木	健太郎	27	愛知県	24	44						
44	松本	充	57	栃木県	24	44						
47	伊東	秀和	12	千葉県	24	- 47						
47	浅田	史樹	24	東京都	24	- 47						
47	江口	健太	48	福岡県	24	- 47						
47	中原	蛍	64	岡山県	24	- 47						
51	石山	晃	8	東京都	23	+	51					
52	土本	慎也	26	山口県	23	- 52						
53	梶谷	隼人	58	栃木県	22	- 53						
54	岩本	亮太	59	山口県	21	+	54					
55	増原	貴之	25	山口県	21	55						
56	松本	智	15	栃木県	21	- 56						
56	宮地	亮	49	鳥取県	21	- 56						
56	川原	喜代美	60	山口県	21	- 56						
56	高橋	繁樹	62	神奈川県	21	- 56						
60	佐藤	貴洋	3	大分県	20	+	60					
60	村田	佳史	50	鳥取県	20	+	60					
62	本郷	真一	66	京都府	20	- 62						
63	二宮	亮太	2	千葉県	20	- 63						

64	武田	祐一	6	山口県	19.5	64				
65	藤井	壮馬	70	山口県	19	65				
66	安田	隼人	39	愛知県	18	- 66				
67	齊藤	孔明	71	広島県	14	67				
68	清水	哲	37	大分県	14	- 68				

女子リード 総合成績

順位	姓	名	No	予選		準決勝		決勝				
				記録	順位	記録	順位	記録	順位			
2	小林	由佳	43	茨城県	top	1	top	1	44	- 2		
3	榊原	佑子	37	千葉県	top	1	33	4	42	- 3		
4	飯田	あづみ	12	千葉県	top	1	29	+	5	37	- 4	
5	大田	理姿	13	山口県	top	1	35	- 3	36	5		
6	安田	あととり	29	山梨県	top	1	29	+	5	36	6	
7	大澤	咲子	19	群馬県	33	- 18	29	- 8	33	- 7		
8	小川	弥生	10	東京都	38	15	29	- 7	22	8		
9	五月女	美元	33	栃木県	38	+	7	28.5	+	9		
10	松尾	智子	36	長崎県	35	- 17	26	- 10				
11	沼田	ほあし	44	茨城県	38	+	7	25	+	11		
12	八木	名恵	9	東京都	38	+	7	25	12			
13	佐藤	奈津子	21	神奈川県	32	- 19	25	13				
14	竹内	彩佳	18	千葉県	38	+	7	25	- 14			
14	蔭谷	柚佳	45	山口県	38	+	7	25	- 14			
16	山縣	茜	22	山口県	31	- 21	21	- 16				
17	籾内	由希	17	東京都	29	26	21	- 17				
18	壽村	尚良余	31	山口県	31	- 21	20	+	18			
19	廣重	幸紀	25	福井県	38	+	7	20	19			
20	重永	織江	46	山口県	38	+	7	20	- 20			
21	竹下	瑛美李	6	千葉県	30	+	23	20	- 21			
22	岩永	遥香	16	山口県	38	- 16	19	22				
23	水口	僚	7	岐阜県	30	+	23	19	23			
24	是永	つぐみ	41	埼玉県	31	+	20	19	- 24			
25	江口	かおり	35	長崎県	30	+	23	18	+	25		
26	尾上	彩	42	埼玉県	38	+	7	18	26			
27	目次	容子	5	千葉県	27	- 27						
27	武井	あゆみ	11	東京都	27	- 27						
27	村井	茉莉子	28	千葉県	27	- 27						
27	梶山	沙亜里	32	大阪府	27	- 27						
27	大木	雅子	34	栃木県	27	- 27						
27	大場	美和	39	愛知県	27	- 27						
33	福田	恭巳	1	千葉県	26	+	33					
33	平野	さつき	2	千葉県	26	+	33					
33	吉岡	桃子	26	静岡県	26	+	33					
33	小原	裕子	27	千葉県	26	+	33					
37	湯野	愛佳	3	山口県	26	- 37						
38	三浦	真理子	40	愛知県	26	- 38						
39	赤塚	さやか	20	福岡県	24	- 39						
40	小川	那瑠実	8	岐阜県	21	- 40						
41	前田	紀恵	24	鳥取県	20	41						
42	志賀	愛	30	神奈川県	17	+	42					
43	河本	佳那子	23	鳥取県	17	43						



平成22年度国際委員総会と第29回海外遭難対策研究会を終えて

国際委員長 青木 茂

平成22年6月19日(土)～20日(日)の両日、栃木県山岳連盟の主管により、世界遺産に登録されている日光東照宮に程近い日光市営交流促進センターを会場に、平成22年度国際委員総会と第29回海外遭難対策研究会が開催された。参加者は、各都道府県岳連から14名、講師、常任委員などを含めると42名の参加があった。

6月19日、午後3時から、桑川 章国際常任委員(以下常任委員)の司会で、開会式が行われ、日本山岳協会を代表して本木總子副会長と、坂口三郎顧問が主管岳連の立場から、それぞれ挨拶を頂戴した。

3時20分過ぎから2時間余り、烏常任委員の司会により、平成22年度国際委員総会が開催された。青木より、資料に基づきながら、①21年度事業報告及び収支報告 ②22年度事業計画及び予算 ③UIAA及びUAAAの報告 ④海外登山奨励金交付登山隊の活動状況 ⑤各岳連(協会)への高峰登山調査に関する考え方 ⑥医科学委員会とのリーフレットの作成 ⑦JAC海外委員会との50周年記念合同事業などについて報告と説明を行い、近藤和美常任委員のシシャパンマ登頂報告と、佐伯尚幸常任委員による台湾情報などが続いた。その後、各岳連(協会)からの活動状況の報告と、山梨岳連から次回委員総会の予告を行い総会を閉じた。会場では、笹原常任委員による書籍の委託販売も行われた。

6時30分から始まった夕食会の席上では、大宮求常任委員の進行で、3人の講師も交えながら、渡邊雄二栃木岳連副会長による講師をお願いした神長善次氏の紹介があった。また、所用のために遅れて参加された小島守夫栃木岳連会長より挨拶を頂いた。8時からは、会場を移し、剣持常任委員の進行による恒例の懇親会が、夜が更けるのも忘れ続いていた。

翌、6月20日、午前8時40分から開催された第29回海外登山遭難

対策研究会では、貫田宗男常任委員の進行で、「ヒマラヤにおける気象予報を活用した登山」講師：北日本海外登山研究会《2009K2登山隊》隊長 保坂昭憲氏と、「ヒマラヤにおける最新気象技術」講師：株式会社メテオテック・ラボ 猪熊隆之氏のお二人から、気象予報を用いた実践活動を通じた登山報告と、気象の基礎知識から応用技術などについての解りやすい説明に、多くの参加者が傾聴していた。11時過ぎからは、在ネパール日本国大使館の大使をされていた神長善次氏による「ヒマラヤの醍醐味」と題した講演を拝聴したが、何枚もの写真を用いた紹介と説明や、現地から届いた食べ物の試食を交えながら、ネパールの山々の醍醐味と、山々の恵みと生活について、とても貴重なお話を聞く機会に恵まれた。

最後に、小島守夫栃木岳連会長はじめ役員の皆様と、栃木岳連国際委員会の皆様には、事前準備から当日の片付けに至るまで、本当にお世話になりました。心温まるおもてなしに、心より感謝を申し上げ報告とする。

なお、平成23年度国際委員総会と第30回海外遭難対策研究会は、山梨岳連が主管し、山梨県南アルプス市芦安芦倉1570にある南アルプス山岳館を会場に、平成23年6月18日(土)から19日(日)にかけて、開催することが決定している。



神永善次元大使の講演



ヒマラヤにおける気象予報の講演をする保坂昭憲氏

平成 21 年度氷雪技術研修会および主任検定員養成講習会 報告書 (富士山)

期 日 平成22年3月20日～22日

場 所 山梨県富士山五合目周辺

参加者

【研修会】黒田記代(大阪)、清水学(神奈川)、荒木浩二(茨城)、工藤誠志(静岡)、高木宏(愛知)石川まゆみ(愛知)、梅垣延男(京都)、宮永幸男(京都)、白川哲治(京都)、傘木靖(京都)、溜島純子(鹿児島)、山本一夫(大阪) 12名

【主任養成講習会】村田健治(長野)、古島俊彦(長野)、田所洋一(茨城)、菅谷政宏(茨城)、中山秀樹(愛知)、藤木晴夫(北海道) 6名

【講師】永井豊、切嶋良、瀧根正幹、堤信夫、鈴木由郎(以上指導常任委員) 5名

《報告》

初日、全国各地、北海道や鹿児島から富士吉田駅に集合。例年より積雪が少なく、タクシーで、五合目に向かった。

まず、登攀技術の基本の確認を、ハーネスの着用、ロープの結束法、バックアップ方法などから開始した。翌日の天候が、低気圧の発達による荒天が予想されたため、ただちに、雪面での実技研修に入った。

耐風姿勢、キックステップ、アイゼン歩行の基本の確認を実習。夜は、各県からの参加者の自己紹介で始まる山に関する交流会となった。

2日目の午前は強風のため、室内で登山用具の正しい使用法の確認等を実施した。午後からは、今回の研修最大の課題である、スタンディング・アックス・ビレイ(SAB)の使用場所、安全性、速さ、確実性、簡易性などの実践的検証となった。支点となるスノーピッケルからのスリングを補強する脚の位置が、昨年の谷側から山側への変更の問題。また、SAB体勢での滑落者の制動確保とビレイヤーの自己脱出、それに続く引上げシステムの構築方法での実施をふまえての検討を行った。その結果、①滑落者を停止させても、その状態を仮固定するまでに、相当の体力(特に、女性には)が必要であり、スタンディング姿勢での仮固定すら必要な場合が生じる。②支点からグリップ・ビレイの状態になっても、片手で滑落を防ぎ仮固定するための姿勢や握力の問題、③仮固定するための結束法は、片手でもしやすいプルージックが良好である点。④8.2ミリロープでは、冬用グローブして両手で

グリップしても、固定しきれない人が多い点。⑤引上げするためのバックアップ支点の確保問題。⑥仮固定し、引上げシステムの構築するための一連の結束法(クローブ、ミュール、アンカー)のメリットの確認などを実施及び検証した。

次に、滑落停止の実技を各自実施。その中で、今回参加者の最高齢70代半ばの方の滑落停止を見ていた人々から、思わず「うまい!」の声が漏れた。また、土嚢による支点作立法やその強度の確認も実施。夜は、2グループで実習したSABの課題の検証を室内で行った。ロープの太さによる滑落者停止後の「脱出」方法の違いなどを検討。その中では、グリップ・ビレイから、巻き付けそしてアンカーの仮固定に至るスピーディーな事例などが示された。

最終日、前日の課題の確認やバックアップの検討や改良策、スノーボード(雪きのこ)をつくり、その強度を確認した。昼には、総括をし、その中で最近の登山に関する名称の変遷、技術方法の変化に関して、「これだ、という基本」は公式的なものとして変化させないで普及する工夫を要望する意見などが出された。そして、参加者それぞれが、収穫と課題を持って閉講した。

(静岡・工藤誠志 記)

(参加者の感想) 鹿児島大学山岳部 溜島 純子

今回の研修会では、いろいろな方法がある技術を実際に試してどの方法が良いか検証して基本的な技術を確認することが出来ました。特に、SABは個人個人でやりやすい方法が異なり非常に勉強になりました。自分自身、今まで後輩として教わるだけであった為、今回の研修で少しでも技術を伝えられるようになったのではないかと思います。

また、まだ経験が浅い自分にとっては大先輩方の様々な意見やお気持ちを聞く良い機会でもありました。鹿児島から来たということもあり、周りの方々には大変お世話になり温かい雰囲気の中で学んでいくことが出来て良かったと思います。多くの良い出会いに恵まれたと強く感じています。

UIAAスティーブ・ロング氏招聘の意義

UIAA登山委員会のスティーブ・ロング氏が日本勤労者山岳連盟と(社)日本山岳協会の招きにより来日された。その間30日に東京・早稲田大学で、1日に札幌、5日にエルおおさかで講演を行い、クライミングなど短い日本の休日を楽しまれた。10年前に日本勤労者山岳連盟が招聘されたピットシューベルト氏ほどの強烈な印象は残されなかったが、スティーブ・ロング氏の話は閉塞状況にある日本の山岳団体にとって重要なヒントになるものであった。各講演とも200人くらいの方が参加され、意図するところはほとんど理解して頂けたと思う。特に指導、遭難対策関係者にはとても興味深い内容であった。

英国で1970年代に1人の教師と6人の生徒が低体温症でなくなる事故があり、事故対策は教育しかないという結論になった。英国は連合王国という通り4つの国があり、大きな山岳団体も4つに分かれており、さらにいろいろな団体がバラバラに教育や登山の普及をおこなっていた。そこでそのバラバラだった講習内容や資格を英国内で統一する作業が始まった。その中心になったのがMLT (Mountain Leader Training) だったそうである。各種の団体が行っている講習内容や資格認定を整理・統一し、現在では252の団体(プロバイダー)が講習を実施し、必要な講習をどこでも受けられるようになっている。そのうち最大のもは国立登山研修センターで約3分の2の講習を実施している。そのため各人の講習や登山歴をログブックで管理するとともにデータベース化し、どこで受講しても資格を取得できるようになっている。昨年7000人弱の人がリーダー資格に挑戦したそうでリーダー資格を目指した人の累計は20万人である。登山を勉強することにより大学の学士の資格がとれる国であるが、リーダーになろうとする方がこのように多いということも日本とは事情が異なっている。ともあれこうした施策により事故は減少しているそうである。日本にも(社)日本山岳協会の指導員制度があるが、2700人の指導員しかいない。この指導員資格も第1次登山ブームの時の急増する事故を防ぐために設けられたものであるが、組織内の事故防止に主眼がおかれ、その目的は果たされたが、登山が一部の登山者から大衆登山となり、さらに中高年登山ブームの到来により、遭難防止の機能をほとんど果たせなくなってしまった。名称は指導員=インストラクターであるが実態はリーダー養成なのかインストラクター養成なのか明確でなく、組織内の人しか指導員になれないため一般登山者からは遊離したものとなっている。

日本でも立山で8人が凍死する事故があり、同様に対策として教育だということで文科省が中心となり中高年向けの指導者講習会を行い3000人弱が受講しているが、こちらも実態は初級登山教室である。中高年の遭難事故が増え続け、死者・行方不明者が300人、遭難・事故者が2000人を越える現状を見る限り、実効性がないことは明白である。

英国で国内の講習内容や資格認定を整理・統一するにあたり参考にされたのがUIAA STANDARDである。これはUIAAが制定したもので、ISOと似たような標準化手法である。リーダーやインストラクターの養成をするために必要な標準的な要件がまとめられたものである。このUIAA STANDARDに基づき、その国の山岳団体が行っている講習内容や資格認定のシステムに必要な要件を満たしているか審査し、認証するものである。これを元に英国の講習内容や資格認定のシステムが設計された。英国の登山のリーダー、インストラクターの資格は10クラスに分かれている。(社)日本山岳協会の指導員制度では最近ようやくスポーツクライミングが分かれたが、登山については2クラスに分かれているだけでかなり多くの内容が実技講習に詰め込まれているためどうしても応用的な技術、登はん技術が中心になる傾向がある。英国ではトレッキングリーダー(無雪期)、トレッキングリーダー(積雪期)など細かく分かれ、それぞれが十分な実技講習を行うため遭難防止に有効な基礎技術が綿密にチェックされる。

日本でも本当に事故を教育で予防しようとするなら、一般登山者向けのリーダーやインストラクターの養成システムの設立が望まれる。それも日本勤労者山岳連盟、(社)日本山岳協会、国立登山研修所の制度が整理・統一され一般登山者がいつでもどこでも受講でき、資格認定が受けられることが望ましい。しかし、英国スタイルにも問題が無い訳ではなく、クライミングとマウンテンインストラクターの関係などスポーツクライミングの取扱いが徹底していない。またMLTが一般の寄付から成り立ち、一番マスの大きい一般登山者やクライマーの講習は扱わないなど財政的な問題も残されている。

ともあれ、こういう講演を日本勤労者山岳連盟と(社)日本山岳協会の共同でできたということが、はじめの1歩としては大きい。これに登山研が加われば、先が見えてくる。それこそが公益法人としてのそれぞれの団体の使命であると思う。

(遭難対策委員長 西内博)

第20回 Mountain World

エヴェレストに年齢制限 18～60歳

池田常道

世界最高峰の頂はいま、国（地域）別初登頂や最年少、最高齢、親子、夫婦、兄弟、姉妹……思いつくかぎりの条件で「記録」を狙う登山者によって毎年のように挑戦されている。ついさきごろも13歳のアメリカ少年、ジョーダン・ロメロが父親とともに頂上に立って最年少新記録を作ったとメディアの話題になったばかりだ。

中国チベット登山協会（CTMA）は、6月12日に発表した8か条の補足条項に18歳から60歳という年齢制限を盛り込んでこうした傾向に歯止めをかけることにした。これはエヴェレスト（チョモランマ）のほかチョー・オユー、シシャパンマを含めた8000m峰3座に適用されるもので、この秋から発効する。その目的は「登山隊の質の向上と安全を図るため」と説明されている。

ネパール側にはすでに16歳という年齢制限があるが、チベット側には規制がなく、ロメロはこれを利用してノース・コルから頂上に立った。2003年にはミン・キパ（15歳、女性）もチベット側から挑んで成功した。ネパール側の規制は、2001年にサウス・コルから頂上を往復したテンバ・ツィリ（当時16歳）が帰途重い凍傷を受けて手足の指数本を失う結果に陥ったことに由来する。CTMAによる今回の措置は、年端もいかない少年少女が無謀な冒険に走るのを予防しようとするものだ。これら若年層は経験も乏しく、危機回避能力が十分備わっているとは言えないが、親や周囲が記録作りに熱心になる傾向が強い。

実際、エヴェレストのスピード記録保持者ペンバ・ツェリンは、10歳の息子を来年エヴェレストに連れて行くと言明。アメリカ人から記録を奪い返す、と豪語している。エヴェレストの最年少記録は、実のところ1973年のシャンブ・タマン（17歳）以来ずっとネパール人が独占してきたので、ロメロの成功がその伝統を打ち破ったからだ。一方、最高齢のほうは、しばらくの間日本人の専売特許のようになっていたが、ネパールのミン・バハドウル・シェルチャンが三浦雄一郎氏の75歳をひとつ上回るこ

とが認定されて、現在の記録保持者になった。80歳で登頂して新記録を作るという数人が名乗りを上げているのも事実。補足では、「医師の証明がある場合は」と例外を匂わせる一文があるから、全面禁止ではないようだが。

しかし、この種の競争にどれほどの意味があるのだろうか。最年少競争も含めて、山へ登るのに本末転倒の数字に熱くなってどうする？と感じるのは筆者だけではないだろう。

今回発表された補足には他にもいくつか重要な項目があるので、以下に原文を示して読者諸氏の参考に供することにした。

Supplementary Provisions of Expedition
(The implementation of the 2010 Fall)

In order to promote the organization of expedition, improve team quality and avoid waste of resources, CTMA to do the following additional provisions for future permit applications, size, reception:

1. The expedition must apply the climbing permits in one month before. Application must provide the expedition's schedule, service requirements and real information of the member (Including: name, sex, birth date, nationality, occupation and passport copy).
2. If clients required applying visas in their own country, must mention in one month before
3. The team size for three major peaks (Mt. Qomolangma, Cho-oyu and Shishabangma) must be above 5pax (can contain Nepalese staff), No requirement for other peaks.
4. The ratio for clients with Nepalese staff should be of 6:4, over the proportion of Nepalese we'll charge as clients' cost.
5. The team can not add new member after the procedure declaration. If increased the team size must be above 5pax.
6. After the team entry to be in accordance with the approval of the agenda, can not arbitrarily change the itinerary.
7. Climbers in principle limit the age between 18-60 years of age. If climbers' age are not within the provisions of range, must provide proof to the special health-related applications.
8. Beyond the original services we'll charge the extra fee according to the actual situation.

追悼 大森薫雄先生

大森薫雄先生は2010年4月24日に入院中の病院で肺がんのため逝去されました。享年76歳でした。訃報を前にして誰もが「はや過ぎる」と感じたのではないのでしょうか。なぜなら「わたしもはや後期高齢者ですから」とおしやりながら各方面で八面六臂の活躍をされる先生はいつも若々しく、病とは縁のない「生涯現役」ドクターであったからです。県立病院院長として、また、定年退職後は老人ホーム附属の診療所長として医業を続けられる一方で、日本山岳会副会長を二期四年務められ、さらに2003年から2008年の間は日本山岳協会の副会長としてその責を果たされました。この間、山岳協会の中の医科学委員会およびアンチ・ドーピング委員会の委員長も兼務されるなど、多忙な日々であったと思われまふ。しかし、夏山シーズンに開設される診療所をオープンする7月20日頃にはなにを措いても母校の山岳部OB会が管理する槍ヶ岳山荘の診療所まで登って開設の指揮をとることを自らに課しておられたと聞いています。

本年5月8～9日に水上温泉で第30回日本登山医学会学術集會が開催され、学術プログラム終了後の夕刻より30周年記念懇親會が日本山岳協会田中文男会長はじめ各界来賓のご出席を得ておこなわれました。大森さんは30年前の1980年に日本山岳会医療委員会の中島道郎、山本良三さんと共にこの学会の前身である「日本登山医学研究会」を立ち上げ、翌1981年7月には母校である慈恵会医科大学高木講堂で自ら大会長として学会を開催・運営されたのでした。しかしながらこの度、30周年という節目にあたり往時を回顧するこの懇親會において、大森さんの姿がみえないという事実は学会会員にとってまさに青天の霹靂で、痛恨の極みでありました。ウイットに富む大森さんの思い出話を期待していた参加者はあらためてつい二週前に旅立たれたことを思い知らされたのでした。

大森さんの登山医学に対する情熱は、先に述べた研究会創立の頃と些かも変わることなく持ち続けられました。

ヨーロッパで若年クライマーの手指骨変形と骨折が問題となっている事実に鑑み、日本山岳協会主催のジュニア・オリンピックカップ大会に出場する選手の実態調査（アンケートおよび問診、視診、触診、手指のX線撮影）を2004年から3年間、延べ182名について精力的におこない、評価の結果をもとに発育期のジュニアクライミング選手に対し障害予防のための貴重な提言をされました。

さらに、かねてより日本登山医学会の懸案であった山岳認定医制度立ち上げの道筋をつくるべく2008年のUIAA医療部会において先達の英国から情報を収集し、会長はじめ日本山岳協会という組織の協力態勢をきめ細かく構築する素地をつくっていただき、その成果も相俟って本年5月に認定のための研修會が学会主催でスタートしました。この経緯は入院中の病院からご自宅に外泊される機会に読んでいただければ幸いと、電子メールにて報告しておりましたが先生の無念を思うと胸が痛みます。この認定医制度は受講資格に年齢制限をつけていないので、大森さんは真つ先に手をお挙げになるだろうと主催者は確信していたようです。

登山の方では1970年の日本山岳会エベレスト登山隊に医師団として参加されサウスコルまで到達、またその医学的研究成果に対して中島道郎さんとともに第八回秩父宮記念学術賞を受賞されています。

「わたしはラッキーボーイなんですよ」というのが大森さんの口癖でしたが、そうなるに十分な実力・能力があつてこそその結果であり、畏敬の念を禁じえません。

大森さんの一生は青春に満ちみちたものであつたことと思います。その駆け抜けた青春のごく一部を紹介させていただき、心からご冥福をお祈り申し上げます。

医科学委員会・アンチドーピング委員会委員長
堀井昌子

伴野栄子さん逝去

昭和61年から平成15年までの18年間、日山協事務局に勤められた伴野栄子さんが、6月16日に逝去されました。享年76歳。通夜（6/21）、告別式（6/22）は川崎市中原区の大乗寺・金剛殿で執り行われました。

UAAA アジア山岳連盟 2010年春期理事会報告

5月21日 中央アジアの山岳国キルギスタンの首都ビシュケクで、UAAAの2010年度春期理事会が開催された。4月の政変で開催が危ぶまれたが予定通りとなった。大統領府ビルに若干の傷が見える以外は、街は平静で夜間の外出も問題がなかった。参加したのは、主催国キルギスタンの他、イ

ラン（IRIMF）、韓国（KAF）、台湾2団体（CTMA、CTAA）。日本山岳協会からは、田中会長と笹生が参加した。また現地のトレッキング・登山ガイド協会でボランティア活動をしている海外青年協力隊員の鈴木翔太君がオブザーバーで参加してくれた。

リインジョンUAAA会長と主催者キルギスアルパ

インクラブのコミサロフ氏の挨拶に続き昨年度総会の議事録の確認から会議が始まり、若干の誤植訂正の他は問題なく承認された。続いて、各国から活動報告があった。

イランからは、ダウラギリ遠征で5名登頂、スペインティークにも女性隊6名登頂など毎年高所登山が盛んな様子が報告された。田中会長からは、合同遠征への参加と少年少女登山教室の活動が簡単に報告された。少年少女登山教室について詳細を知りたいとの発言が複数あり参加者の関心は高く、秋の総会で詳細を報告することになった。台湾ではCTAAは安全啓発セミナーの実施、CTMAは政府のナショナルトレール整備計画への参画とエコ登山啓発活動が報告された。韓国KAFからはパルドール峰合同遠征への参加の他、5月29日のサガルマータ・デイ（カトマンズで開催されるエベレスト記念イベントで今年が7回目となる）に韓国の登頂者100名に招待状を発行したという。本年1月にUIAAアイスクライミング委員会からコースセッターを呼んだアイスクライミング・コンペティションが開催されたことが報告された。来年の大会はアイスクライミング・ワールドカップWCの一戦として実施したいとのこ



とであった。ゆくゆくは、これを日本などの大会とリンクさせてWCアジアサーキットとしたいようである。日本での大会もその波に乗って行くか検討が迫られる。青少年活動では、5の遠征隊を派遣するユース遠征プロジェクトが人気を集め、応募3000人を越え、4次選考までして参加者を選んでいるとのことであった。また新たにUIAAのユース委員会にも委員を送りこみ、積極的に青少年国際交流を進めてゆく戦略を取り始めたようである。また新たに発行された英文年報第2号が配布された。

GPS登山地図

Gnavi 「GN-01」

パソコン用デジタルマップ標準装備

「道迷い遭難」には登山用GPS



登山地図4,342面を収録

<http://svgnavi.jp/>

携帯電話auでGPS登山ガイド

山と写真ガイド

豊富な登山と写真記事を掲載

圏外で使えるケータイGPS



au携帯電話より登山全119エリア等高線地図

<http://yamanavi.jp/>

BLC BUSINESS LINK CORPORATION

「G-navi」、「山と写真ガイド」に関する情報は各ホームページへお問合せ 株式会社 ビジネスリンク TEL:03-3475-0454

昨年提案があったUAAA賞についての討議では、登攀、環境、レスキューの3部門賞ではどうかとの意見が出たが、誰が選考するのか、基準付けはどうかなど、詰めなければならない項目がまだ多く今後メールで意見を集約することとなった。田中会長からは賞を出すとしてもUAAAをアジアのスポーツ競技団体としての存在意義を高め権威を確立するような性格にするべく慎重に取り組む必要があるのではないかとの発言があった。

2011年合同遠征については、モンゴルから同国連盟の60周年記念事業として主催したいとの意志表明があり、フィティン峰(4370m)で承認された。田中会長から、単なる登山でなく、各国のレスキュー関係者を集めて隊を編成し、各国の技術交流の場にしたらとの提案があり、満場一致で合意された。

李会長からクライミングを韓国インチョンで開かれる2014年アジア大会の種目にできないか可能性を探っているとの報告があった。これは、李氏が、大会組織委員長と親しいことからだが、かなりハードルは高いようである。

田中会長がブラインドクライミング世界選手権開催について発言されると、参加者から高い関心が寄

せられ情報提供を求められた。今年度総会を11月第1週の方向で調整することが確認されて、閉会した。

会議終了の翌日、郊外の山岳国立公園の視察ハイキングがあり、氷河のある4000m峰を望むトレールを歩いた。都市から1時間弱で高峰にアプローチできるのは驚きであった。その夜キルギスのコミサロフ会長と田中会長が会食し得た情報では、5000m峰から7000m峰まで登攀が比較的短い期間でできるし、5000m級の未踏峰もまだまだあるとのことで、日本からの航空運賃も比較的安価で、魅力ある遠征・トレッキング適地にみえた。

登山月報に連載してくれている協力隊鈴木君は、今後1年半ほど現地のガイド協会で働き日本から訪問者を増やすなどの支援をすることになっている。他にも女性隊員2名がキルギスの観光開発のため働くことになっており、日本語での情報発信が期待される。これまで日本からのトレッキング・登山客は年間800人程度で彼らの活躍次第ではまだまだ伸びるのではないかと。唯一の不安材料は治安だが、入山地域を選べば懸念するほどのことはないように思える。

(国際部常任委員 笹生 記)

BMC International Sea Cliff Climbing Meet 2010

期 間 2010年5月9日～16日
場 所 イギリス コーンウォール地方
主 催 B M C (British Mountaineering Council)
参加形態 日本山岳協会からの派遣
参加者 中嶋 徹、兼原 慶太



【趣 旨】

世界各国から集まったクライマーと出会い、共に登り、そして素晴らしい体験を共有しよう。また、英国のクライマーたちが守り続けてきたモラルと倫理を実際に登ることによって感じてほしい。
※本ミーティングは毎年夏、冬交互に開催されており、近年は日本からも2名ずつ日本山岳協会からの派遣により参加している。

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS** ASG-10 販売価格 18,900円(税込)

正確な位置情報があなたを助ける!

- 3つのセンサー(加速度・方位・気圧)で正確な位置・移動情報を表示
- 事前プランニングで楽しさ倍増!
- 軌跡表示で目的地に誘導
- 23種の多彩な表示項目

株式会社 コピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33
TEL 03-3769-2525 FAX 03-3769-2520
お問い合わせ先:アトラス事業部 山下まで
<https://atlas.yupiteru.co.jp>
※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入もできます。

【概要】

今年は初めて「シークリフ・クライミングミート」と題し、コーンウォール地方の海岸線に続く岩場にて開催された。築200年にもなるクライマーズクラブ所有の宿舎（元々は炭鉱夫のための建物）で、21カ国から集まった28名のゲストとそれを上回る数のローカルゲストが共同生活しながらこの地のトラッドクライミングを体験する。ちなみに岩場には終了点も含めてボルトは1本もない。生活はいたってシンプルで、朝起きたら自由に朝食をとり、お弁当を持ってその日のホストと好きな場所に登りに行き、陽が暮れる頃に戻ってくる。夜も基本的には自由に食事をとり、眠くなったら寝る。

【費用】

参加費として£85/1人（現地での宿泊費、食費、交通費が含まれる）に加え、往復の航空代金を日本山岳協会にご負担いただいた。

【報告】

「登山やクライミングはケガや死を招く恐れのある活動である。ミーティングの参加者はこれらの危険性を理解し、その行動と結果についても、自らに責任が帰するものと理解すべし」。これは、初日のブリーフィング前に渡された資料の中の一文である。

夕食後のブリーフィングでは、ホストを代表してPat Littlejohn氏が挨拶に立った。ユーモア溢れる話ぶりには笑いが絶えないが、「死人を出さないということが、今後このミーティングを継続させるためにも非常に重要だ」との言葉には、場内の空気が一瞬止まったように感じられた。そして「いくら大きな壁でもボルトを埋めてしまえば普通の壁になってしまうが、ボルトを一切許容しないことで小さな壁であっても大きな冒険を体験することができる」と。当たり前なことではあるが非常に説得力を感じるとともに、準備してきたつもりでの覚悟がもしかしたら少しばかり足りないかも知れず、なんだかえらいところに来てしまったという緊張感が襲ってきた。ちなみにこのPat Littlejohn氏はこの地を含めイギリス国内に多くの冒険的トラッドルートを開拓し、かつてMick Fowlerと共にタウチェ北東バットレスを初登攀した人物である。

さて、翌日からは「食べて、登って、寝る」の繰り返しである。ゲスト1人にホスト1人が付き、レベルに応じて様々なエリアへ登りに出かけ、陽が暮れる頃に帰ってくる。出かける前に、誰と誰がどこ

へ誰の車で出かけるのかを、しっかりと張り紙に記入することを忘れてはいけない。何かあったときのために。

我々にももちろんホストが付いた。徹にはカメラマンで、昨夏のピークディストリクト訪問時にも世話になったAlex Ekins。私にはイギリスでもっとも充実しているクライミングウェブサイト「UKC」とガイドブック「Rock Fax」主催者のMark Glaister。メディア関係の2人にながっぷり組まれて、なんだか徹の成果を期待されているようだ。実際「お仕事色」が濃厚になる一瞬が多々あった。しかし、最初に手渡された資料にもあるとおり、すべての危険性は自分自身でコントロールしなければならない。私には徹が「エッジ」を超えてしまわないように祈るしかない。

最初に連れて行かれたのがLand's EndにあるPordenack Pointというエリア。我々2人とも風邪で体調が優れないので、まずは簡単なルートで体を慣らしたいとの希望から選んでくれたエリアである。Land's Endとはまさにイギリス本島を三角形に例えると左下の先端。すなわち西端。「この海の先はアメリカ大陸だよ」と、Markが小学生に諭すような口調で教えてくれた。さすがに観光地だけあって駐車場は有料である。が、ゲートで料金徴収のお兄さんに「これからクライミングに行くんだ」みたいなことを告げるとしばらく沈黙の後、目だけで奥を示して先をうながしてくれる。果たして冒険者に対する敬意からか、もしくは貧乏臭い4人組にハイソな観光客が支払う駐車代など持ち合わせがあるまいと思われたからかは、いまだもって分からない。岩質は粗い花崗岩。しかし見た目以上にフリクションが利かないところが多い。足場は悪く、取付まで懸垂下降で下り、リード&フォローで登り返す。この日は簡単なルートからE4まで5、6本ほど下っ

ネパールに行くなら、 風の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。

KAZE

株式会社 風の旅行社

観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(JATA)正会員
総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.0ビル 6F
TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F
TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail info@kaze-travel.co.jp

ては登り返すことを繰り返し、早めに切り上げた。

〈Cornwallの岩場は大西洋に面した海岸線30kmほどに60以上のエリアを抱え、そのすべてのエリアに終了点も含め、ボルトは一切ない。かつてはリスにピトンが打たれた状態で初登されたルートも、現在ではその多くが引き抜かれ、新たな初登者を待っている課題もある。しかしそんなCornwallにも、ボルトが持ち込まれようとした時期があった。そのとき、この岩場での冒険を愛する皆が断固としてそれを排除した。その結果、今ここではモラルと倫理、そして冒険性が保たれている。〉

そんな話を帰りの車の中で聞いた。世界では少数派となってしまったトラッドクライミングではあるが、この国の冒険に対する敬意や倫理観を体で感じ、皆で共有し合うことにこそ、このミーティングの意義がある。そう思いつつ後部座席で寝入ってしまい、気が付いたら宿舎の前。そんな初日だった。

《生活に厳しい規律があるわけではない。起床も食事も、いつでもどこへ登りに行き、何時に帰ってくるかも自由。期間中誰が何を登ったのかも私は知らない。ただ皆と顔を合わせるたびに、「良い日だったか?」「楽しんでるか?」と挨拶をするだけ。なにしろ21カ国28人のゲストにそれを上回る数のホスト、さらにはBMCスタッフを加え、総勢65人の人



間が合宿生活をしているのだ。全体では自己紹介さえしていないので顔と名前と国が最後まで一致しない人がかなりいた。規律の厳しかった中学校の修学旅行で、こっぴどく叱られ、あまり良い思い出のない私にとって、「多国籍」が集うこのファジーな合宿生活は性に合っていた。ただ、その分コミュニケーションの大切さも実感した。この場にいながら殻に閉じこもっていてもミーティングの意義は半減。せっかく日本から参加するのだから日本のことを伝え、他国のことを伝え聞くことこそ参加者に与えられた最大の責務。そうは感じつつも、まったりとひとり部屋の隅このソファにどっぷりと沈みながらコーヒーを抱え、雑誌を読みふける時間も多かったかな。》

(次号につづく)

寄贈図書

●寄贈本●

太田忠行 超知山 泰澄の道
カヒルトナ氷河からマッキンレイ
紺碧の空へ
中平等新一
山に惹かれ山に学ぶ

●雑誌●

東京新聞出版局 岳人7月号

山と渓谷社山と渓谷 7月号
ROCK & SNOW
中国登山協会 山野6月号

●会報●

岩手県山岳協会
勤健康体力づくり事業財団
兵庫県山岳連盟
㈱日本山岳会 自然保護委員会
埼玉県山岳連盟
㈱大阪市スポーツ・みどり振興協会
㈱国立公園協会

㈱日本ゲートボール連合
㈱全日本ボウリング協会
FECC
㈱日本武術太極拳連盟
高校生新聞社
㈱日本体育協会
㈱大韓山岳連盟
㈱日本スポーツ振興センター
日本勤労者山岳連盟
㈱日本オリンピック委員会
東京野歩路会
㈱日本山岳会
神奈川県山岳連盟

新潟県山岳協会
山梨県山岳連盟
日本ヒマラヤ協会
長野県山岳協会
近畿山岳愛好会
愛知県山岳連盟
やまびこ山想会
大阪府立体育会館
日本山岳写真協会
大阪府山岳連盟
韓国山岳協会

日時 6月10日(木) 17:30～
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、
栗飯原副会長、神崎副会長、本
木副会長、西内、佐藤、高山、
尾形、北山、相良、谷口、永井、
長谷川各常務理事
委任 仙石、堀井、青木、寺内
常務理事(18名中14名出席)

1.専門委員会動静

5月常務理事会以降
(5月7日～6月9日)

[報告]

(1)指導・競技合同委員会

5月7日(金) 出席者7名

ア 指導・競技小委員会(3/10)
の協議内容の確認

イ スポーツクライミング上級指
導員認定者の承認について(報
告)

ウ スポーツクライミング指導者
認定証(カード)について

エ 義務研修について

オ 規程・規約集「平成21年度
暫定版」の改訂について

カ スポーツクライミング上級指
導員養成講習会について
山梨・小瀬(6月19日～20
日)

福井(10月9日～11日)

宮城(10月15日～17日)

キ 講師養成研修会について

・神奈川県山岳スポーツセンター
(8月21日～22日)

ク 任務の分担・役割分担の確認
について

(2)指導委員会

5月8日(土) 出席者4名

ア 修了証の発送準備

(3)指導委員会

5月10日(月) 出席者14名

ア 指導委員会(4/5)議事録
の承認

イ 指導・競技合同委員会(4
/17～18)議事録について

ウ 指導員会(5/7)議事録に

ついて

検定会:スポーツクライミング
の未経験者が参加した場合は、
山歴をみて判断
主任検定員としての判断は、後
日整理してまとめる。6月中に
決定。

エ ロープの結束強度テストにつ
いて

5/31に最終テスト

オ 修了証について

21年度分は5/11に発送予定
主任検定員分は作成中

カ 平成21年度主任検定員の判
定について

キ 指導員総会について

ク 義務研修の実施申請

京都、福島、福井

ケ 認定申請

指導員:東京 6名、山口
1名

コ 更新登録講習会委嘱

福井、福島、京都

(4)広報委員会

5月14日(金) 出席者6名

ア 日山協リーフレット(案)に
ついて

イ 登山月報6月号の編集につ
いて

(5)普及委員会

5月14日(金) 出席者6名

ア 中高年安全登山指導者講習会
について

・平成22年度の進捗状況ほかにつ
いて

・平成23年度の開催県について

イ 第49回全日本登山体育大会
(静岡)について

・環境省への後援申請(5/13)

・各コースのコンセプト(自然保
護以外)の確認について

ウ みんな集まれ! ジュニア登
山教室について

・事前現地打合わせについて(5
/22)

・募集説明用チラシの内容につ
いて

(6)選手強化委員会

5月17日(月) 出席者4名

ア ユース代表合宿について(日
本スポーツ振興センター基金事
業)

(7)自然保護委員会

5月18日(火) 出席者*名

ア 自然保護委員会に関わる50
周年記念事業の取組みにつ
いて

イ 自然保護委員総会の取組みに
ついて

・総会予報を登山月報に掲載

ウ 第1回研修山行について

・6/19～20, 尾瀬、帝釈山、
会津駒ヶ岳

エ トレイルラン、文化財他:フ
リークライミングへの検討PJ
立上げ他

オ 野生鳥獣目撃レポート及び取
組みの充実について

・自然環境連絡会の統一活動とし
てのリーフレット作成

カ 自然保護常任委員について

(8)海外委員会

5月18日(火) 出席者10名

ア 海外登山隊クロニクルトーク
ショーの報告について

イ 委員総会の開催要項の確認と
準備について

ウ リーフレット作成について

エ JACとの合同委員会(6/
3)の開催について

(9)競技委員会

5月20日(木) 出席者10名

ア 5月常務理事会報告

イ 平成21年度決算理事会・22
年度通常総会報告

ウ 中学3年生の国体導入後のア
ンケート調査について(日体協)

エ リード・ジャパンカップ大会
の進捗状況について

オ JOCジュニア・オリンピッ
クカップ大会の進捗状況につ
いて

カ 第1回ブラインド・クライミ
ング世界選手権の進捗状況につ
いて

キ 2011ワールドカップ印西大会の進捗状況について

ク 後催県の準備状況について
千葉・第1回基準会議の報告
・規則集は22年5月改訂版を使用

ト レナーの資格について検討

他の後催県は、特になし

(10)遭難対策委員会

5月26日(休) 出席者7名

ア 総会について

・鹿兒島、三重のほか、東京の事故事例紹介を追加する

イ 全山遭について

・出席者確認、機器展示を例年通り実施

ウ スティーブ・ロング氏講演会について

・講演会後の懇談会の内容、目的、参加者について

エ 常任委員研修会について

・7月末に登山研で実施、講習内容の見直し

(11)海外委員会 6月3日(休)

出席者8名 (JACとの合同委員会)

ア 海外登山クロニクルトークショーの開催について

・「ザ・植村直己デー」の内容及び会場変更について

・「ザ・エクスペディションデー」について部会協議

・「ザ・ヒマラヤデー」について部会協議

イ 次の合同委員会について

(12)指導委員会

6月5日(土) 出席者8名

ア 指導委員総会準備

(13)指導委員会

6月7日(月) 出席者10名

ア ロープ結束強度テストデータについて

イ UIAAスタンダードの受け入れについて

スティーブ・ロング氏との懇談会報告

ウ 5月指導委員会議事録の確認

指導者合格者は登山月報に掲載する

エ 氷雪技術研修会(大山)の報告

オ スポーツクライミング上級指導員養成講習会について

カ 主任検定員の現状について

キ 主任検定員認定証(案)について

ク 指導委員総会について

ケ 認定申請

指導員:茨城1名

主任検定員:長崎1名、鹿兒島1名、宮崎1名

2.その他の重要事項

(5月7日～6月9日)

[報告]

(1)第30回日本登山医学会

5月8日(土)～9日(日)

於:群馬県みなかみ町・水上館
谷川ホール 田中会長、堀井常務理事

(2)高体連登山専門部・前田善彦事務局長来局 5月13日(休)

(3)平成21年度決算理事会・平成22年度通常総会 5月16日(日)

於:岸記念体育会館 田中会長
ほか

(4)社団法人山岳ガイド協会懇親会

5月18日(火)

於:弘済会館「梅」 田中会長、
本木副会長

(5)日体協競技団体評議員連合会幹事会 5月18日(火)

於:岸記念体育会館 田中会長

(6)(独)国立登山研修所・渡邊雄二

所長来局 5月18日(火)

(7)平成22年度選手強化事業事務説明会 5月19日(水)

於:岸記念体育会館504・505
会議室 中川事務局員

(8)スティーブ・ロング氏講演会打

合わせ 5月20日(木)

於:労山事務局 尾形常務理事

(9)第68回国体東久留米市準備委

[50周年記念募金協力者ご芳名]

(7月9日現在)

30口・明宏印刷、20口・東京都山岳連盟、
東京都山岳連盟有志一同(阿部信茂、石原千秋、大澤康雄、大島俊男、大島文雄、
小尾健一、亀山健太郎、佐藤旺、瀧本健、
寺内文行、中嶋正治、永井豊、西嶋久貴、
廣川健太郎、福田博信、松元邦夫、宮地由文、
本木總子、山中信幸、若村勝昭)、
尾上昇、2口・中津川山岳会、遠藤家之進
正和、女屋等志

総額:310口・155万円

員会設立総会 5月20日(休)

於:東久留米市役所 寺内常務理事

(10)山岳遭難・捜索保険打合わせ

5月21日(金)

於:事務局 三井住友・藤岡、
山岳共済事務センター・瀬田、
尾形常務理事

(11)50周年事業「ジュニア登山教室」打合わせ

5月22日(土)～23日(日)

於:国立登山研修所、国立立山
青少年自然の家、立山カルデラ
砂防博物館

本木副会長、西内常務理事、松
本富山岳連会長、佐伯常任委員

(12)U A A A 理事会

5月21日(金)～23日(日)

於:キルギス(Bishkek) 田中
会長、笹生常任委員

(13)日体協競技団体評議員連合会総会

5月27日(木)

於:岸記念体育会館 田中会長

(14)50周年記念祝賀会打合わせ

5月28日(金)

於:事務局 東京プリンスホ
テル・山口、尾形常務理事

(15)平成22年度中高年安全登山指

導者講習会連絡会議

5月29日(土)

於:岸記念体育会館 本木副
会長、西内、仙石、尾形常務理
事

(16)スティーブ・ロング氏来日

5月29日(土)

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396 FAX：03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

- 於：成田空港 笹生常任委員
- (17)50周年記念スティーブ・ロング氏講演会 5月30日(日)
- 於：早稲田大学国際会議場 田中会長、内藤、本木副会長、西内、青木、尾形常務理事
- (18)日本勤労者山岳連盟創立50周年記念祝賀会 5月30日(日)
- 於：リーガロイヤルホテル東京 田中会長、内藤、本木副会長、西内、長谷川、尾形常務理事
- (19)役員変更による登記申請 5月31日(月)
- 於：小野司法書士事務所 尾形事務局長
- (20)50周年記念「安全登山の講演と映画会」打合わせ 5月31日(月)
- 於：事務局 羽田栄治、尾形事務局長
- (21)50周年記念スティーブ・ロング氏講演会 6月1日(火)
- 於：札幌エルプラザ 小野理事
- (22)第65回ゆめ半島千葉国体山岳競技第2回基準会議 6月4日(金)
- 於：印西市総合体育館 田中会長、高山常務理事
- (23)50周年記念スティーブ・ロング氏講演会 6月5日(土)
- 於：エルおおさか 西内常務理事
- (24)第24回リードジャパンカップ千葉大会・ゆめ半島千葉国体リハーサル大会 6月5日(土)～6日(日)
- 於：印西市総合体育館 田中会長、内藤副会長、高山、北山、寺内常務理事
- (25)長谷川清・福井岳連副会長の叙勲祝賀会 6月6日(日)
- 於：福井・ユアーズホテルフクイ 神崎副会長
- (26)スティーブ・ロング氏との懇談会 6月6日(日)
- 於：神戸登山研修所 西内、永井、佐藤常務理事ほか海外、遭対、指導常任委員
- (27)日本郵便・料金後納取扱承認 6月7日(月)
- (28)第49回全日本登山体育大会の環境省名義後援承認

6月7日(月)

3.議事

- (1)平成22年度5月常務理事会議事録の承認について(8字加入で承認)
- (2)平成21年度決算理事会議事録の承認について(6字加入で承認)
- (3)平成22年度通常総会議事録の承認について(承認)
- (4)平成22年度第1回理事会議事録の承認について(承認)
- (5)平成22年度常務理事会の役割り分担について(提案通り承認)
- (6)平成22年度日体協公認スポーツ指導者等表彰候補者の推薦について(指導委員会に一任で承認)
- (7)賛助会員の承認について(久保田明宗氏を承認)
- (8)大韓山岳連盟の高容喆、李石珩両氏への感謝状贈呈について(提案通り承認)
- (9)国体功労者表彰対象者の推薦について(京オ昭氏を推薦することで承認)
- (10)2010年リード日本代表選手について(提案通り承認)
- (11)報告事項
ア 登録選手の制裁の件
イ 『登山死亡遭難事故事例集』の購入について
ウ 50周年記念事業について
エ 平成22年度全国山岳遭難対策協議会開催について
オ 会計月次報告

4.役員等の派遣について

- (1)自然公園財団平成22年度第1回理事会 6月11日(金)
- 於：法曹会館 田中会長
- (2)平成22年度都道府県体育協会指導者育成事業事務担当者会議 6月11日(金)
- 於：岸記念体育会館 蛭田、瀧本常任委員、中川事務局長
- (3)青木半治 お別れの会 6月11日(金)
- 於：ホテルオークラ東京 尾形常務理事
- (4)JOC総務委員会 6月15日

(火)

- 於：岸記念体育会館 尾形常務理事
- (5)日本体育協会平成22年度第1回評議員会 6月16日(火)
- 於：品川プリンスホテル 内藤副会長
- (6)第13回秩父宮記念スポーツ医・科学賞表彰式・受賞祝賀会 6月16日(火)
- 於：品川プリンスホテル 内藤副会長
- (7)日本アルパインガイド協会設立報告・懇親会 6月16日(火)
- 於：新宿住友ビル47F 本木副会長、永井、尾形常務理事
- (8)国際委員総会・海外遭難対策研究会 6月19日(土)～20日(日)
- 於：栃木・日光市交流促進センター 本木副会長、青木常務理事
- (9)平成22年度第1回ナショナルトレーニングセンターセミナー 6月25日(金)
- 於：味の素ナショナルトレーニングセンター 中川事務局長
- (10)第12回日本ワールドゲームズ協会総会 6月28日(月)
- 於：海洋船舶ビル10F ホール 尾形常務理事
- (11)平成22年度全国山岳遭難対策協議会幹事会 7月5日(月)
- 於：文部科学省 西内常務理事
- (12)山岳4団体懇談会 7月9日(金)
- 於：JACルーム 田中会長、内藤、神崎、本木副会長、尾形常務理事
- (13)パラクライミング・カップ2010 7月24日(土)～25日(日)
- 於：イタリア・ダオネ 小日向常任委員、小林幸一郎
- 5.後援、協賛等の依頼について**
- (1)日本山岳写真協会展「2010山われらをめぐる世界」の後援(承認)
- (2)国際認定山岳医研修会の後援

- (承認)
- (3)フォレストミーティング2010
石鎚山トレフォーラムの後援
(承認)

- 3 主任検定員 前川文雄(長崎)、野田孝(鹿兒島)、長友利憲(宮崎)

6.報告

- (1)自然保護指導員の承認
群馬 2名、静岡 2名、大阪 2名、熊本 13名
- (2)指導員の認定承認
 - 1 上級指導員 なし
 - 2 指導員 鈴木章子、輿水公子、中村勝、児島正晃、廣川健太郎、廣川厚子(以上東京)、阿部智安(山口)、石川正博(茨城)

登山月報 第496号

定価 100円(送料別)
 予約年間1、200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成22年7月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

編集後記

梅雨末期の豪雨災害の報に胸が痛みました。皆様の地域は如何でしたでしょうか。

梅雨明け以来、日本付近に居座る太平洋高気圧の仕業か、猛暑日がつづいています。

山ガールたちで賑う木曽駒千畳敷カールの残雪の涼しさを体験してきた身には、一際暑さが堪えます。

山だけでなく、街でも熱中症対策には充分気を配り、無事に酷暑の夏を乗り切りたいものです。

(広報 本木 総子記)

皆さまのご協力のお陰で日山協の50周年記念事業も着々と進行しております。



成功させよう JMA 50周年記念 「自然保護委員総会」のご案内

2010年度自然保護総会・会場を予定している新潟県柏崎市高柳地区は、湯量豊富な温泉にも恵まれ「住んでよし、訪れてよし」の里山の自然を今に残す貴重な地域です。

新潟県山協では、「里山に生かす生物多様性に学ぼう」「治山、治水から考える、棚田の重要性」をスローガンに、下記の内容で総会の準備を進めています。

記

- 1.期日** 平成22年9月11日④～9月12日④
- 2.開催地** 新潟県柏崎市高柳町高尾 じよんのび温泉『じよんのび村』※総会会場は隣接の「こども自然王国」
- 3.日程** 【受付 9月11日④ 午前11時50分～13時15分(予定)】
 - 11日④ [1日目] 総会 13時40分～
 全国委員長会議(総会12:30～13:30実施予定)
 講演「動植物に関して(計画中)」
 懇親・意見交流会
 - 12日④ [2日目] 観察会は記念撮影後、2コースにて行います。
 (コース1) 黒姫山(柏崎市) コース: 4時間程度
 (コース2) 棚田(高柳地区) コース: 3～4時間程度
 お好きなコースを申し込み時に選択。楽しんで戴きます。
 散会は、正午前後を予定して計画中です。
- 4.その他** (1)参加費 一人15,000円【1泊3食(おにぎり等)、懇親会費含む】
 (2)会場への送迎バスは、: JR線:十日町駅からのみです。【詳細は近々ご案内します】
 (3)じよんのび温泉『じよんのび村』 TEL:0257-41-2222 FAX:0257-41-2265
 ※お問い合わせは午前8:30～5:00にお願いします。
 (4)前泊をご希望の場合は、各自での対応をお願いします。
 (5)車での参加は、交通機関の混雑を考慮して時間に余裕を持って計画願います。

さまざまな山域で、日夜活躍させている自然保護委員会の多くの仲間が「親しく交流の輪を広げる機会です」JMA 50周年の記念総会で「待ったなしの課題」を語り合いましょう。

